

日中経済交流研究会新聞 日中経済交流研究会 2024年12月例会

中国でも実践 人を生かす経営

～人間尊重の精神に国境なし～

開催日：2024年12月9日(月)／参加者：●名

報告者：東洋製鉄(株)専務取締役 音頭 良紀氏



会社概要

創業：1957年(昭和32年)／事業所：国内工場 京都、播磨、明石、名古屋、出雲など7カ所

事業内容：建設機械・産業車両用鋳鉄製及び板金製カウンターウエイトの製造・販売/各種鋳鉄製品及び大物製缶構造物の製造・販売

会社の特色

昭和32年4月設立の70年近い業歴を持つ鉄製カウンターウエイトメーカーです。設立時からカウンターウエイト一筋に取り組み、着実に技術力を向上させ、取引実績を積み上げて「ウエイトの東洋製鉄」としての知名度があります。製品として名前が表に出ない製品提供を行う下請けメーカーであり、常にコストダウン要請のターゲットにされると思いますが、バランスウエイトの国内シェア70%内外、グループ全体で80%内外を占め、生産効率に優れることから、総資本経常利益率、売上高経常利益率は業界基準値を上回り、高い収益力を誇っています。国内7カ所に工場を持つなど豊富な設備を背景に、建機をはじめとする機器類小型化や軽量化などの製品課題解決や、モデルチェンジの際に求められる試作品製作など、多様なニーズに柔軟に対応できることが強みであり、安定した業績確保につなげています。

先行きは中国を中心とした世界の景気動向により受注に変動が見られますが、今後は国内需要の確実な取り込みによる受注の平準化に注力する他、既存得意先には従来にない提案型セールスをして着実な成果につなげていきます。また、将来の需要増や生産体制省力化への対応において名古屋工場の増床などを実施しています。

「鉄の文化を土台に、ものづくりを支えます」が経営理念です。製品の品質からサービスの品質まで、あらゆる業務を通じて常にお客様の立場に立ってスピーディーに行動します。また「環境問題にも意識を高く持ち、省エネルギー活動等の推進等を通し、社会に貢献してまいります」が行動指針です。

中国でも実践「人を生かす経営」

音頭専務が中国工場を建設したのは2013年と、進出時期としては比較的遅いものでした。「ほんまかいな」と振り返る苦難の日々。そして「これからや」という時に新型コロナウイルス感染拡大下で発生した重大クレーム。

中国に長期滞在し陣頭指揮に当たった期間に、気づいた経営感覚と築いた人間関係がありました。

最初は、日本人と中国人の感覚の違いから困惑することが多くありましたが、中国事務所で働くスタッフ一人ひとりがかけがえのない人生を送るために、日々音頭さんは努力しました。スタッフが60歳還暦を祝ってくれたこともありました。その時に感じたのは、日常的に社員一人ひとりとコミュニケーションをとることが最も大切であるということでした。

2022年にも重大クレームが発生しました。市場エンドユーザーにて溶接箇所から亀裂が発生したのです。その時も「クレームの責任は俺が取る」とスタッフと一致団結して乗り越えました。人を生かす経営、人間尊重の精神に国境はない、人として幸せな人生を送ることが万国共通の願いである「謝謝大家」という言葉を残されました。

感想

音頭さんの会社資料の中にあつた、会社の2006年度から2023年度までの損益計算書の資料と貸借対照表の資料を見て驚愕しました。先ず50期である2006年の売上高140億円が2023年度には240億円程に、毎年緩やかではあるが伸ばしていること。純利益も毎年数億から10数億円上げていること。そして何よりも私が驚いたのは、常に自己資本比率が80%以上、多い時は90%以上であることです。

例会報告の最後の時間に、同友会の基本理念「自主・民主・連帯」の深い意味と日常の実践について少し長い時間話していた姿が印象的でした。やはり経営とは人を生かすことだと、あらためて小生は痛感しました。



文：日中経済交流研究会 広報委員会
昭和交通(株) 山元 茂弘